

平成29年6月14日

長崎県立大学	
担当課	シーボルト校 総務企画課 企画グループ
T E L	095-813-5500
担当者	河崎、藤井

長崎県立大学シーボルト・カフェ「生きるを育む」  
「障害を持つ息子へ 息子よ。そのまま、いい。」の開催について

本学では、地域住民の方を対象とし、人の心と身体を充実させる視点から地域活性化を図ることを目的とした「シーボルト・カフェ」を開催しています。このたび、表題のテーマで講座を開講することとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 日時

平成29年7月8日（土） 13:30～15:30（受付13:00～）

2. 場所

長崎県立大学シーボルト校 中央棟1階 M103 講義室

3. 講師

神戸 金史 氏（RKB 毎日放送 報道局 東京報道部長）

4. 講演内容

テーマ：「障害を持つ息子へ 息子よ。そのまま、いい。」

障がい者19人が犠牲になった相模原事件の3日後、父親がフェイスブックに投稿した一文が注目を集めた。「息子よ。そのまま、いい。」自閉症の息子を慈しむ父親のメッセージは一気に広まった。父親の名は神戸金史さん。RKB 毎日放送東京報道部長で、息子を取材したテレビドキュメンタリー「うちの子～自閉症という障害をもって～」を制作した。

日本における障がい者の現状や課題について取材を重ね、公私にわたって障がい者問題と向かい合ってきた。神戸さんが著書、テレビドキュメンタリーに託した思いを語る。

※詳細は、別紙のチラシをご参照ください。

5. 参加費

無料

6. お申し込み

FAX お申し込み用紙（チラシ裏面）、メールまたはホームページの申込フォームにてお申し込みください。

締め切り：7月4日（火） ※当日参加も可

FAX：095-813-5220

E-mail：kikaku-g@sun.ac.jp

申込フォーム：[http://sun.ac.jp/form/sieboldcafe\\_entry/](http://sun.ac.jp/form/sieboldcafe_entry/)

以上

# 障害を持つ息子へ 息子よ。そのまま、いい。

## 障害を持つ息子へ

～息子よ。そのまま、いい。～

息子よ。  
そのまま、いい。  
それで、うちの子。  
それが、うちの子。  
あなたが生まれてきて  
くれてよかった。

神戸金史

Kanbe Kanbumi

「この本が、この時代の日本に『ある』ということが嬉しい」

——重松清氏推薦!

ブクマン社

「障害者なんていなくなればいい」  
犯人はそう言った。  
相模原殺傷事件に、障害児の親は、  
兄弟は何を思ったのか。  
感動を呼んだ父の詩と、  
自閉症の息子をめぐる愛の物語。

障がい者19人が犠牲になった相模原事件の3日後、父親がフェイスブックに投稿した一文が注目を集めた。「息子よ。そのまま、いい。」。自閉症の息子を慈しむ父親のメッセージは一気に広まった。

父親の名は神戸金史さん。RKB毎日放送東京報道部長で、息子を取材したテレビドキュメンタリー「うちの子～自閉症という障害をもって～」を制作した。日本における障がい者の現状や課題についても取材を重ね、公私にわたって障がい者問題と向かい合ってきた。神戸さんが著書、テレビドキュメンタリーに託した思いを語る。

日時

平成29年7月8日(土)

13:30～15:30(受付13:00)

プログラム:13:30～ テレビドキュメンタリー「うちの子～自閉症という障害をもって～」上映  
14:30～ 神戸氏講演会

場所

長崎県立大学 シーボルト校中央棟M103講義室

講師

かんべ かねぶみ  
神戸 金史 氏 (RKB毎日放送 報道局 東京報道部長)

参加費

無料

申込締切

7月4日(火) ※当日参加も可

メール、ホームページの申込フォームまたは裏面FAXより、  
必要事項(氏名、ふりがな、年代)を明記のうえお申込みください。

[申込先・お問い合わせ先]

長崎県立大学 シーボルト校 総務企画課企画グループ 〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1  
TEL: 095-813-5500 FAX: 095-813-5220 Email: kikaku-g@sun.ac.jp

# 障害を持つ息子へ 息子よ。そのまま、いい。

講師プロフィール



かんべ かねぶみ  
神戸 金史氏

1967年、群馬県生まれ。91年に毎日新聞に入社し長崎支局に配属され、雲仙・普賢岳の大火砕流災害に遭遇。92～95年、島原市に住み込んで、災害取材に専従。4年間の記録を『雲仙記者日記 島原前線本部で普賢岳と暮らした1500日』(ジャストシステム出版部)として発行した。

99年から2年間、記者交換制度でRKB毎日放送(福岡市)に出向し、放送記者を体験。ドキュメンタリー『攻防 蜂の巣城 ～巨大公共事業との闘い4660日～』を制作、放送文化金賞で入賞。毎日新聞に復帰後、東京社会部で2004年、自閉症児の父親の立場からコラム「記者の目」の執筆や、『うちの子 自閉症とその家族』を連載した。

2005年、RKBに転職、福岡に戻る。ドキュメンタリー『うちの子 自閉症という障害を持って』で新聞連載を映像化し、JNNネットワーク大賞を受賞。

相模原殺傷事件から3か月後の2016年10月、自らの家族の歩みと自閉症児の家族への取材を綴った『障害を持つ息子へ～息子よ。そのまま、いい。～』(ブックマン社)を出版した。

## FAX申込書

必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

メールでお申し込みの場合は下記事項を [kikaku-g@sun.ac.jp](mailto:kikaku-g@sun.ac.jp) までお送りください。

申込日	平成 年 月 日		
お名前 (複数名の場合は 全員分ご記入ください)	申込者	ふりがな	
		氏名	
		年代	(10代以下・20代・30代・40代・50代・60代以上)
	同行者1	ふりがな	
		氏名	
		年代	(10代以下・20代・30代・40代・50代・60代以上)
	同行者2	ふりがな	
		氏名	
		年代	(10代以下・20代・30代・40代・50代・60代以上)

[お問い合わせ先]

長崎県立大学 シーボルト校総務企画課企画グループ 〒851-2129 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

TEL:095-813-5500 FAX:095-813-5220 Email:kikaku-g@sun.ac.jp